

令和2年1月31日



学校だより

# ひびき

2月号



昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shishigaya/>



～気持ちのよいあいさつ～

副校長 斎藤 忠雄

大寒を過ぎて、立春を待ちわびているところですが、寒さが厳しい日が続いております。

1月は、運営委員会の5、6年生が昇降口に立ち、朝の挨拶運動がありました。初日の朝会でも、校長先生から「獅子ヶ谷小学校の伝統でもある『あいさつができる』ということ意識して、みんなで気持ちのよい挨拶をしていきましょう。」という話がありました。

挨拶と言えば、私には少年時代の苦い思い出があります。私が小学4年生、当時所属していた野球チームの試合に父が応援にきた時のことです。その日の試合で活躍することができた私は、父が褒めてくれると思い、意気揚々と帰宅しました。すると待っていた父は、烈火のごとく怒鳴りつけてきたのです。「お前の活躍なんて関係ない。監督に目も合わせずにする「おはようございます」、ノックを受けた後の「ありがとうございました」の適当さ、お前の態度にあきれて途中で帰ってきた。お前の心がこもっていない挨拶はなんだ！」と父から説教されたのです。振り返ってみると確かに高学年になり、少しばかり上達していい気になっていた自分がいました。それ以来、私もできるだけ気持ちのよい挨拶をしようと心掛けています。

「挨拶は、魔法の言葉」とは、昔から言われていることです。挨拶は仲良くなるための最初の一步。挨拶をするだけで「この人は話しかけやすい人だな」と、相手の自分に対する声かけのハードルが下がり、その後のコミュニケーションに繋がります。また、挨拶をされることによって、「自分の存在を認められている」「私に気付いてくれたんだ」などと嬉しくなるものです。気持ちよく挨拶する人に会うと、それだけで「この人はいい人だ！」とも思うものです。「ありがとうございます」などのお礼の挨拶も思っているだけでなく声に出したほうが、きっと相手に伝わるのではないのでしょうか。

昔に比べて人間関係が希薄になったと言われる現代社会において、挨拶は人と人がふれあい心温まることのできる大事な手段だと思います。ぜひ、獅子ヶ谷小学校の子どもたちと挨拶を大切にして、学校生活をよりよいものにしていきたいと思います。

明日から2月です。まだ寒い時期も続きます。体調面に気を付けるとともに、あと2ヶ月、子ども同士のよりよい関わりを大切にしながら、学年のまとめの時期に入っていきたいと考えています。

保護者・地域の皆様には、引き続きお声がけをはじめ、ご理解・ご協力をお願いいたします。